

イギリスの船と港（その1）

会員 福富 廉

昨年夏に旅行したイギリスの各地で出会った船々について、これまでにレポートしたアイリッシュ海のフェリーおよび古き豪華客船に関するもの以外で目についたものをお紹介したい。

イギリスの船遺産というと、まず昔は「柳原良平編集 船の雑誌2」の”大英帝国の遺産”（是則直道氏著）でいつかは行ってみたいと考えさせられ、その後、ロンドンとその近郊のドーバー／ポーツマス／チャタムには行き、今回は主にそれ以外の場所を訪ねたものである。

私が参考にしていたのは、下記の2冊の書籍であることも紹介しておきたい。

① 「BRITAIN'S HISTORIC SHIPS」 by PAUL BROWN (2016 2nd edition, Bloomsbury Publishing Plc)

② 「International Register of Historic Ships」 by Norman J Brouwer

(1993 2nd edition, Anthony Nelson Ltd.)

1. ロンドン

ロンドンのテムズ川周辺は実に見るべきものが多い。今回は、中心部のみだったが、ビッグベンの傍のウェストミンスター・ブリッジから 4km 程下流のロンドン・ブリッジまで見て回った。

テムズ川の観光・通勤用ボートとして、以前は青が基調の船体のテムズ・クリッパーがあったが、ライドシェアのウーバー社が命名権を有して提携し、運航はそのままながら、外観に Uber のロゴが入った黒中心のボートが行き交っていた。また、この時、日本の海上自衛隊の練習艦「かしま」がタワー・ブリッジを通過して入港し、記念艦「Belfast」に横付けしていた。



ロンドン・ブリッジの袂にあるドレーク船長の「Golden Hinde」の1973年製のレプリカ →
プリマスに近いブリックハムにもう1隻、1963年製の同船のレプリカがあるらしい。



Uber boat 「Meteor Clipper」



Uber boat 「Monsoon Clipper」



1934年製の外輪船「Tattershall Castle」
元はハンバー川の渡船 今はパブとして利用中



遊覧船「Millennium City」



1934年製の元英海軍の砲艦「Wellington」



テムズ川のロンドン・ブリッジから下流のタワー・ブリッジ方向を望む 記念艦「Belfast」の隣に海上自衛隊の練習艦「かしま」(TV3508、中央)が停泊中

2. ブリストル

ブリストルはブリストル湾からエイボン川を 10km 以上遡った内陸にあるが、閘門で仕切られた立派なドック式の港で、港内はまるで船のテーマパークのごとく、かの「グレート・ブリテン」以外にも多数の興味深い船を見ることができた。有名な保存船としては、Ships Monthly 誌でも度々取り上げられている客船「Balmoral」や、レプリカだが帆船「Matthew」があり、その他、小型のタグボート等色々なものがあった。



1809年から港の入口にある閘門の運用を司るポンプ室（煙突のある建物）と造船所（左側）のあるアンダーフォール・ヤード
今はブリストル観光の拠点のひとつとなっている



ヤード中央の引揚船台
後述の「Matthew」等も揚げられているそうだ



ブリストル港に出入りするための閘門
上の写真の煙突の右奥のほうにある



アンダーフォール・ヤードの説明図



1949年製の内航客船「Balmoral」(688GT)
現在、夏季はイギリス海峡での遊覧船として使われており、冬季はブリストル港で係船されているそうだ



ブリストル港内の水上バス「Emily」

ブリストル港内の水上バス「Matilda」



ブリストル港内を横断する渡し船「No.7 Boats」 船外機船

ブリストル港内の遊覧船「Flower of Bristol」



キャラベル船「Matthew」の1996年製レプリカ
1497年にカボット船長がブリストルからニューファウンドランドまで航海した船 カナダのボナビスタにもう1隻あるそうだ

練習帆船「Fridtjof Nansen」1919年製
始めは貨物スクーナーで、その後、青少年の帆走訓練船として
使われていたようだが、今は動いてはいないかも？



現存で世界最古と言われるタグボート「Mayflower」1861年製（右）と1934年製の消防艇「Pyronaut」（左）



1935年製のタグボート「John King」

3. コッツウォルズ

コッツウォルズからバーミンガム付近には縦横に川や運河があって、ナロー・ボートが実際に数多く行き来していた。特に、シェークスピアで有名なストラトフォード・アポン・エイボンではエイボン川を通る色々な船を見ることができた。



エイボン川の遊覧船「Mayflower」



エイボン川の渡し船（チェーン・フェリー）1回1€
中央の人力の機械を回して両岸に渡されたチェーンを手繰る



ストラトフォード・アポン・エイボンの港入口のロックに入って来たナロー・ボート



ストラトフォード・アポン・エイボンの港内の船溜まり

4. リバプール

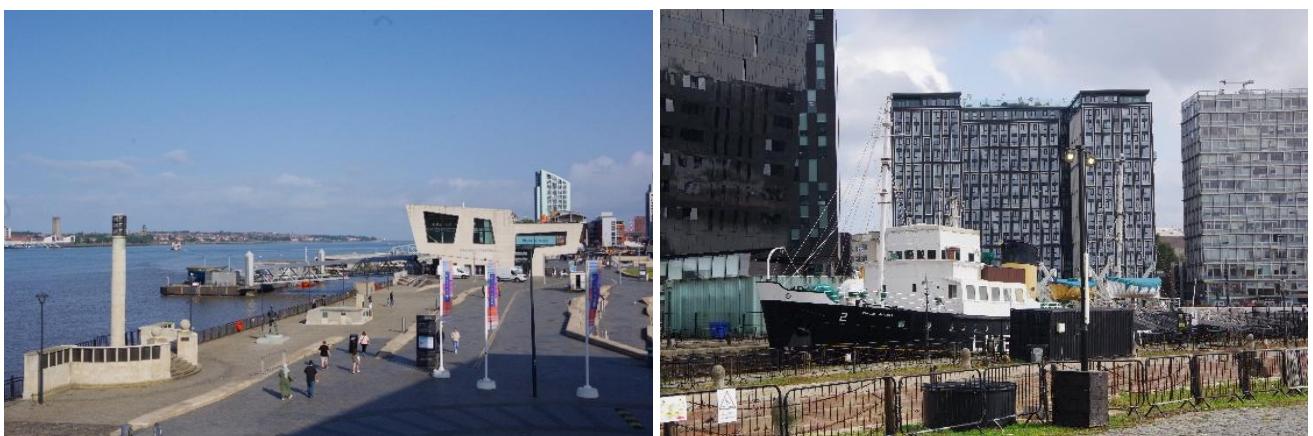
リバプールには、渡し船兼遊覧船として使われていて、ものすごく特徴的なカラーリングの「Snowdrop」が走っていた。この船で港内遊覧すると、街側のウォーターフロントからコンテナ・ターミナル、対岸のフェリー・ターミナルや軍艦建造で有名なキャメル・レアード社の造船所等を見て回ることができる。また、ここで泊った鉄道駅（リバプール・ライム・ストリート）脇の“The Liner Hotel”は、その名の通り、昔の豪華客船がモチーフになっており、フロアや施設の名称が客船ライクであり、通路の壁にはキュナードやP&O等の絵がホテル全体に掲げられていて楽しかった。



ピーター・ブレイク卿による鮮やかなダズル迷彩を施されたマージーフェリーの 1959 年製渡し船兼遊覧船「Snowdrop」



「Snowdrop」の船内 船内には博物館のような説明パネルが多数飾られていた（左の写真の左側）



遊覧船乗り場 ビートルズの銅像がある

1953 年製のパイロット船「Edmund Gardner」
マージーサイド海洋博物館の保存船



入港してきたマン島航路の「Manannan」
インキヤット製高速カタマラン

ドック（内港）から出てきた RORO 船「Seatruck Power」



キャメル・レアード造船所全景



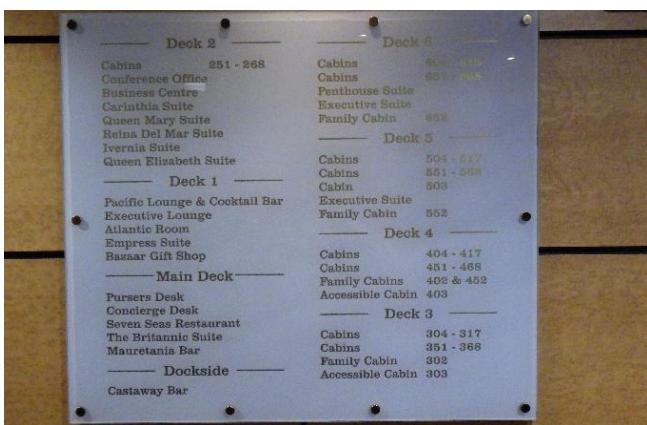
同左に入渠中のカレドニアン・マクブレインのフェリー
「Caledonian Isles」 5,221GT 1993年製



対岸ビルケンヘッドにある U ボート (U534) の展示場 (休止中)
船体は 3 つ程にバラバラ 左の塔がフェリー最寄りの鉄道駅



The Liner Hotel 入口



The Liner Hotel の案内図 フロアはデッキ、部屋はキャビン



ホテルの廊下の「Queen Elizabeth」の絵 こんなのが多数

5. ベルファスト

ベルファストでは「Titanic」関係の施設の他に、保存艦「Caroline」を見た他、ハーランド・アンド・ウルフ造船所には改造レジデンス船の「Odyssey」（元フレッド・オルセンの「Braemar」）が停泊していて、就航が当初予定の7月からだいぶ遅れていたようだが、最近、ようやく就航したようである。



レジデンス船「Odyssey」(元、「Braemar」)



1916年のユトランド海戦の生き残り「Caroline」
1914年、前出のキャメル・レアードで建造



出港するマン島航路の「Manannan」
リバプール～マン島～ベルファスト航路に就航



ハーランド・アンド・ウルフ造船所のドックで改裝中の浮体式生産・貯蔵・積出船「Sea Rose FPSO」とドックのガントリー・クレーン
船は 2004 年韓国・サムスン重工建造 カナダのニューファンドランド沖の油田で稼働しているらしい



6. グラスゴー

グラスゴーと言えば、かつての重工業の街で、キュナードのクイーンズ姉妹を建造した場所だが、そうした痕跡はクライド川に沿って 3 か所のゴライアス・クレーンやいくつかの残されたドックに見られるだけで、ほとんど港としての機能は見られなかった。ただ、目を見張るものとして、保存されている客船と帆船が 1 隻ずつあったし、確認はできなかったが、クライド川の渡し船等もあるようだった。

1933 年建造の「Queen Mary」はスコットランド西部の内航客船だったが、紆余曲折の生涯を経てクライド川で船遺産となる予定だった。ただ、見た所、一時は 2 本あった煙突も無く、打ち捨てられている感じだった。一方、「Glenlee」は 1896 年グラスゴーで建造された 3 本マストの帆装貨物船で、こちらは紆余曲折を経ながらも幸運にも修復されて 2011 年からこの地のリバーサイド博物館で公開されている。



1933 年製 TS 「Queen Mary」(一時、「Queen Mary II」) 右の写真の右側は 2 基の残されたドック跡 (この付近に多数有)





建造中の回転橋（左写真の左）と 1896 年製の保存帆船「Glenlee」 帆船の右側がクイーン 3 姉妹の大型模型があるリバーサイド博物館

7. エдинバラ

エдинバラの港と言えば、保存・係留されているロイヤル・ヨット「Britania」が有名だが、そこには行かず、今回行ったのは世界遺産で有名なフォース橋の周辺を巡る遊覧船。橋見物以外にも、アザラシが生息する島に立ち寄って間近に見ることができた。フォース橋近くにはクルーズ・ターミナルがあり、また、クルーズ船がしばしば沖がかりでも寄港しており、橋をくぐる写真もよく見られる。



遊覧船「Maid of the Forth」



遊覧船上から見たフォース橋



遊覧船「Forth Princess」(左)と「Queen'sferry Belle」



フォース橋の少し上流のロサイスにあるバブコック造船所
英海軍の最新空母「Queen Elizabeth」の最終組立を行った。
右端はロサイスのクルーズ・ターミナル